

# ワールドカフェで和気あいあい

7月5日(日)、みなくる館ホールを会場に「おいらせの学びMIRAIカフェ」がスタートしました。高校生や大学生の若者から、70歳のベテラン地域活動実践者まで、幅広い世代で職種も様々な参加者17名が、おいらせ町のありたい姿を語り合いました。



たくさんの意見がでて、テーブル上の模造紙はあっという間に字でいっぱい

住民ワークショップ「おいらせの学びMIRAIカフェ」は、今年度の新企画。これからのおいらせ町の地域づくりを考え、実践するため、社会教育は何ができるのか…

7月5日(日)、「MIRAIカフェ」の記念すべき1回目が開催され、参加者17名がおいらせ町について語り合いました。

今回のワークショップは、青森中央学院大学の佐藤淳准教授をコーディネーターに、ワールドカフェ(席替える座談会)の手法により、リラックスした雰囲気の中で話し合いました。参加者は4〜5人のグループに分かれ、まずは自己紹介です。それから、グループメンバーの組み合わせを変えながら、おいらせ町に関する2つのテーマについて語り合いました。

**テーマ①「あなたは、おいらせ町についてどう思いますか？」**  
 ▼違う地域の人達を歓迎する  
 ▼雰囲気が好き▼北側はベッドタウン▼3地域(北部・下田・百石)の合同がおいらせ町▼町外の人に特に説明する言葉が思いつかない(中途半端)▼田舎でもなく、都会でもない▼SCがあり他からの交流人がある▼農業・漁業資源がある▼順応すると「住めば都」▼人が集まる場がない▼人付き合いが悪い、社会性に欠ける▼ジャスコしかない▼自然が豊か▼何も無い▼3市(八戸市・十和田市・三沢市)の間にある▼磨くべき、原石がゴロゴロ 等々

**テーマ②「10年後のおいらせ町は、どうありたいですか？」**

▼大学がほしい▼これがおいらせ町だ!というような物(土産・場所)がほしい▼若い人が集まる場所がほしい▼笑顔であいさつのできる町▼壁の無い町にしたい!▼ホテルがあれば観光が良くなるのになあ▼飛行場を作る▼子育て、高齢者にやさしい町▼県に登録されている地域資源の活用(農産・工芸品・文化財)▼職場がたくさんある町 等々

最後は、グループごとでおいらせ町のありたい姿について1つにまとめ、発表をしました。

- ①人にやさしい町(家庭―町―企業―地域)
- ②人口増の町(仕事・学校・人材・買い物できる場)
- ③教育(おいらせ町独自の教育プログラム)
- ④上質な住環境と地域も繋がりがあやさい町

それぞれ違ったおいらせ町の将来像が4つ出来上がり、第1回目の「MIRAIカフェ」は終了しました。

今回は参加者同士が顔見知りとなり、さらに会話&対話が弾み、楽しい時間になりました。



カフェに集う  
みんなの思いを聞いた

## 佐々木英恵さん

それぞれ考えが違うことが面白くて、他の人の話を聞くことに夢中になってしまい、自分の発言をし忘れてもしたけど、いい経験になったなと思います。



Hanae Sasaki

## 村田久絵さん

今日いろいろな人と話をして、これからやっていかなくてはいけないことがあるんだと考えられたので、よい機会をもらったなと思いました。



Hisae Murata

## 平井佑磨さん

地域の活性化について勉強はしていたけれど、話す機会があってよかったです。いろいろな世代の方の考え、どうすればおいらせ町がよい方向に行くのかを聞ける時間でした。



Yuuma Hirai

住民  
ワーク  
ショップ

# MIRAIカフェ

おいらせの学び